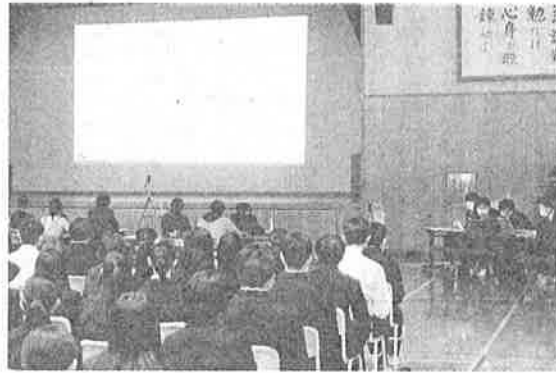


帯広三条高「地域探究」発表会 十勝の課題解決策提案 道CLASSプロジェクト

【帯広発】道教委・道CLASSプロジェクトの指定を受けている帯広三条高校（合浦英則校長）は2月

下旬、1年生総合的な探究の時間「地域探究」の最終発表会を開いた。写真。ゼミ形式の探究活動に取り組んだ1年生が、十勝の観光や福祉、経済などに関する課題の解決策を提案した。

同校は「生徒の進路希望



この日、オンラインを含め各ゼミの協力者31人、保護者23人が生徒たちの発表を見守った。

開会に当たり、合浦校長

に沿った探究的な学び、ならびに都市型の地域協働探究活動のプログラム構築」を研究テーマにプロジェクトを推進している。本年度の1年生から、総合的な探究の時間における新カリキュラムを導入。1年間のうち、上半期は探究学習の目的や工程を学び、

は「考える力、協力して問題を解決する力は、全ての学習や生活に必要」とし、「今回がゴールではなく、スタートの気持ちで他者の発表のすばらしい部分を見つけてほしい」と呼びかけた。

発表に移り、各ゼミの生徒たちが観光や福祉、教育、芸術などに関わる半年間の活動成果を伝えた。

うち堀口人士教諭が受け持つゼミでは「帯広の光を見る」をテーマに、十勝の観光に関して活動を進めた。

生徒たちはSNSを駆使し、道外在住の学生や社会人（19～25歳）を対象にニーズ調査を実施し、26件の回答を得た。十勝の認知度は8割を超え、十勝へのイメージは「自然・風景」「グ

結果を踏まえ、20～25歳の道外在住者を対象に、十勝の自然やグルメを楽しむ冬場の観光ツアー「カッチコッチトカチ」を計画した。ばんえい競馬やウィンタースポーツ、スイーツづくりなどの体験や、グランピング施設での宿泊等を盛り込んだ2泊3日で、1人

当たり11万2000円の料金を設定。水や雪をモチーフに、観光ツアーのロゴも作成した。

同校の探究活動に関わるコーディネーターの長岡行子さんは「生徒たちは活動を進める中で、時には立ち止まって考えを深める場面もあり、探究の真の姿を感じた。関わることで良かった」と話した。